

1

ふりがな はるなじんじや
名称 **榛名神社**

地区 鶴瀬
勝瀬
(榛名神社)
種別 民俗・建造物
時代 近世～
指定



「新編武蔵風土記稿」によれば、祭神として権現様を祭祀し、修験の万宝院が管理していた。創立年代は明らかではないが、本社再建は文明9年(1477)と棟札に明記されているという。4月10日の祭礼は「はんな様」として親しまれ、勝瀬囃子、里神楽の伝統芸能や、植木市がたち賑わう。

2

ふりがな かつせばやし
名称 **勝瀬囃子**

地区 鶴瀬
勝瀬
(榛名神社)
種別 民俗
時代 近代～
指定 市(民俗)



明治時代初期にさいたま市大久保領家より伝えられ、踊りは市内羽沢の神楽師斎藤太夫から教えを受けたと言われる。勝瀬囃子の特徴は「屋台」で、昇り調子で歯切れがよく、聞いていて景気がいいためケンカ囃子と言われた。古囃子である。現在は「勝瀬囃子連」として活動し、4月10日の「はんな様」(榛名神社)、8月28日の「おすわ様」(諏訪神社)などで奉納している。

3

ふりがな ほうのうかく
名称 **奉納額**

地区 鶴瀬
勝瀬
(榛名神社)
種別 民俗
時代 近世
指定



榛名神社の拝殿に、大型の拝殿額(大絵馬とも呼ばれる)が掲げられている。画題は佐々木信綱と梶原影季の宇治川の先陣争い。安永3年(1774)。

4

ふりがな いちょうのきよぼく
名称 **イチョウの巨木**

地区 鶴瀬
勝瀬
(榛名神社)
種別 植物
時代
指定 市(天然記念物)



樹齢推定400年、幹回りは9mを超え富士見市最大の巨木。イチョウには雄木と雌木があり、雌木のみにも実を付け「ぎんなん」と呼び11月頃熟成し落下する。昔から、イチョウには気根と呼ばれる垂れ下がった乳房状の突起が生じ、雌木に祈願すると乳の出が良くなると伝えられている。

5

ふりがな たちいぬすがたのこまいぬ
名称 **立ち犬姿の狛犬**

地区 鶴瀬
勝瀬
(榛名神社)
種別 石造物
時代 近代
指定



榛名神社の狛犬は獅子で、珍しく雄雌が明確である。大正7年(1918)造立。

6

ふりがな いさじまかしあとのすいじんしゃ
名称 **伊佐島河岸跡の水神社**

地区 鶴瀬
勝瀬
種別 石造物
時代 近代
指定



伊佐島河岸跡の竹林そばにある。明治5年(1872)造立。

7

ふりがな いさじまばし

名称 伊佐島橋

地区 鶴瀬
勝瀬

種別 建造物
時代 現代

指定



昭和初期に木橋が架けられたのが最初。それまでは東大久保の人々が上福岡や鶴瀬方面に行くには、古市場の養老橋か南畑橋を利用したという。その後、昭和22年(1947)の丸太橋、昭和34年(1959)の鉄筋コンクリートの橋を経て、平成15年(2003)に新しい橋に架け替えた。伊佐島河岸跡の一角に「水神社」がある。

8

ふりがな おふねやま

名称 お舟山

地区 鶴瀬
勝瀬

種別 民俗
時代

指定



砂川堀右岸にある長さ約50m、幅約25m、高さ約2mの小さな山。「榛名権現らが鉄の船に乗ってきた際に沈没した場所」、「お舟山に棒をさすと鉄の船にあたり音がする」など、榛名神社創立に関わる伝説がある。人工的なものか、自然地形かは不明。

9

ふりがな ごくじ・けんちょう4ねんいたび

名称 護国寺・建長4年板碑

地区 鶴瀬
勝瀬
(護国寺)

種別 考古
時代 中世

指定 市(有形)



板石塔婆とも言われ、鎌倉時代中期から戦国時代にかけて追善供養や死後の冥福を祈るために建立されたもの。建長4年(1252)11月8日造立であり、市内では慈光院跡(南畑新田)の板碑に次いで古いもの。

10

ふりがな せんぼりのべんざいてん

名称 線彫の弁財天

地区 鶴瀬
勝瀬
(護国寺)

種別 石造物
時代 近代

指定



琵琶を弾く妙音弁財天が線彫されている。明治45年(1912)造立。

11

ふりがな さいごのいたび

名称 最後の板碑

地区 鶴瀬
勝瀬
(護国寺)

種別 考古
時代 中世

指定



天正19年(1591)4月吉日と彫られており、市内の板碑の中でも、最後に造られたもの。

12

ふりがな にょいりんかんのんざぞう

名称 如意輪観音坐像

地区 鶴瀬
勝瀬

種別 石造物
時代 近世

指定



日待信仰の本尊として祀られている。観音が片膝を立てて座る姿は、産婦の座産の形で夫人の守り神として信仰を集めていた。正面右側には「武蒭入東郡勝瀬村奉造立日待供養為二世安楽也」と刻まれている。元禄2年(1689)造立。

13

ふりがな おふねやまでんせつの「やたやくしによらい」
名称 **お舟山伝説の「谷田薬師如来」**

地区 鶴瀬
勝瀬
(勝瀬小学校内)

種別 石造物
時代 近世

指定



六郎重清が薬師堂を創建し薬師仏を祀っていたが、焼失した。後年、渡戸村の関口幸春が石仏として再建したという。お舟山伝説に「御水足池」の水を使っているタニシを食べたり、池に石を投げ込むと失明すると言われ、その際に谷田の薬師如来に助けを乞うと治してくれたという。以後、眼病に効く石仏として信仰を集めた。

14

ふりがな かつせはらきねんこうえんの「しゅんこうきねんひ」
名称 **勝瀬原記念公園の「竣工記念碑」**

地区 鶴瀬
ふじみ野東4

種別 石造物
時代 現代

指定



富士山をイメージした竣工記念碑「絆」。記念碑のそばには、地図舗装があり、勝瀬原の土地区画整理事業を後世に伝えるために事業区域(旧字名)と事業前の道路形態を表示している。

15

ふりがな かつせみにばーくの「かおおぶじえ」
名称 **勝瀬ミニパークの「顔オブジェ」**

地区 鶴瀬
ふじみ野東4

種別 石造物
時代 現代

指定



50坪程度と狭く、遊具が置けないため、喜怒哀楽の「楽」の表情を選んで顔オブジェを設置したと言われる。

16

ふりがな ふじみのえきひがしぐちもにゆめんと「ふじみゆめのふね」
名称 **ふじみ野駅東口モニュメント「富士見夢の船」**

地区 鶴瀬
ふじみ野東1

種別 建造物
時代 現代

指定



平成20年(2008)、勝瀬原区画整理事業のまちづくりのシンボルとして設置されたモニュメント。造形作家鈴木尚和氏が、富士山の溶岩や市の木ケヤキが育つ姿をイメージして制作したもの。

17

ふりがな ふじみのえきにしぐちもにゆめんと「かぞくのしょうぞう」
名称 **ふじみ野駅西口モニュメント「家族の肖像」**

地区 鶴瀬
ふじみ野西1

種別 建造物
時代 現代

指定



勝瀬原区画整理事業のまちづくりのシンボルとして設置されたモニュメント。美術作家高須昌志氏が、富士山市に暮らす幸せをイメージして制作したもの。

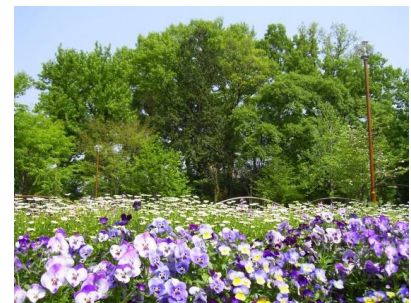
18

ふりがな おとうかやま
名称 **オトウカ山**

地区 鶴瀬
ふじみ野西4
(オトウカ山公園)

種別 民俗、遺跡
時代 近世

指定



一辺約20m、高さ約5mの方形の富士塚(浅間塚)。名前の由来は、昔、狐(稲荷)が住みついていたことに由来する。頂部にあったとされる石造物は、榛名神社に合祀されている。1つは寛政4年(1792)造立の「富士浅間大神」、もう1つは寛政6年(1794)造立の「藤塚神社」と刻まれたもの。

19

ふりがな えどみち
名称 江戸道

地区 鶴瀬
渡戸

種別 民俗
時代 近世～近代

指定



川越街道は公用の道で、庶民は生活の中からできた村を結ぶ道を通して江戸へ向かっていた。いわゆる江戸道(写真手前)である。苗間から渡戸の坂(しつけの坂)を登った所に庚申塔が立つ。

20

ふりがな わたどかんのんどう
名称 渡戸観音堂

地区 鶴瀬
鶴馬

種別 建造物
時代 近世～現代

指定



境内には寛文4年(1664)銘の市内最古の馬頭観音や、道しるべを兼ねた庚申塔などがある。ここから勝瀬に向かう坂は「観音坂」と呼ばれる。

21

ふりがな わたどのこうしんどう
名称 渡戸の庚申塔

地区 鶴瀬
渡戸2
(しつけの坂)

種別 石造物
時代 近世

指定



青面金剛像を浮き彫りにした庚申塔。上福岡、大井苗間方面から来る道(江戸道)と関口不動堂から渡戸観音堂へ向かう道との交差点の木の下のあった(現在は、しつけの坂のコンクリートの祠に納められている)。向かって右側面に「是ヨリ右江戸道」と刻まれ、道しるべにもなっていた。寛政4年(1792)造立。

22

ふりがな じょうじ4ねんめいいたび
名称 貞治四年銘板碑

地区 鶴瀬
鶴馬
(渡戸観音堂)

種別 石造物
時代 中世

指定



貞治4年(1365)銘の阿弥陀一尊逆修板碑。

23

ふりがな わたどかんのんどうのばとうかんのん
名称 渡戸観音堂の馬頭観音

地区 鶴瀬
鶴馬
(渡戸観音堂)

種別 石造物
時代 近世

指定



舟形光背三面六臂の渡戸観音堂の本尊。「寛文四年申辰正月十八日渡瀬村奉納日待供養二世安楽他敬白」と観音講員の名が記されている。寛文4年(1664)年造立は、入間東部で最古級の馬頭観音。

24

ふりがな うきぼりのばとうかんのん
名称 浮彫りの馬頭観音

地区 鶴瀬
鶴馬
(渡戸観音堂)

種別 石造物
時代 近世

指定



馬の姿を浮き彫りにしたもので入間東部で唯一のもの。元禄3(1690)造立。

25

ふりがな かのんぎかの「しゅんこうきねんひ」

名称 観音坂の「竣工記念碑」

地区 鶴瀬
鶴馬

種別 石造物
時代 近代

指定



渡戸観音堂近くの観音坂にある。昭和7～8年にかけて道路改修工事が行われ、鶴馬村青年団の多くの勤労奉仕があったという。

26

ふりがな けんむのいたび

名称 建武の板碑

地区 鶴瀬
渡戸2
(竹際墓地)

種別 考古
時代 中世

指定



板碑には建武4年(1337)の年号と、梵字の光明真言だけが残っている。光明真言は密教で唱える真言の一つで、このような梵字で彫られているのは、その神秘性を保つため翻訳することなく読誦するのが通例であったためという。

27

ふりがな いしやぼうずのはか

名称 医者坊主の墓

地区 鶴瀬
渡戸2
(竹際墓地)

種別 石造物
時代 近世、現代

指定



星野平太夫は出羽三山に登ること53回に及ぶ修験者であり、依頼があれば人々の悩みや諸病平癒の祈願を行い「医者坊主さま」と呼ばれた。元禄11年(1698)造立の墓だが、現在のものは新たに作り直したもの。

28

ふりがな わたどのすいしや「しんぐるま」あと

名称 渡戸の水車「新水車」跡

地区 鶴瀬
渡戸2

種別 民俗
時代 近世～近代

指定



水車を始めたのは弘化2年(1845)で、大正末期まで三代にわたって水車業を営んでいた。現在は庭先に水神祠と水車の水を通したところに小さな橋が残されている。砂川堀を利用して水車業を行っていたのは、ほかに上沢の水車、貝塚の水車があった。

29

ふりがな てんぐぞう(からすてんぐ)

名称 天狗像(カラス天狗)

地区 鶴瀬
渡戸3

種別 石造物
時代 近世

指定



修験の姿をした背には翼を付け、高い鼻、右手に八つ手の団扇を持った丸彫りの立像。元は三芳町藤久保にあったもので関口不動堂前に移設。台座には、新道成派講社員の範囲と講員名が刻んである。

30

ふりがな ころぼつくるのひ

名称 コロボックルの碑

地区 鶴瀬
山室2

種別 石造物
時代 近代

指定 市(有形)



大正元年(1912)造立。その5年前、東京帝国大学(当時)の学生らがこの地を訪れ、採集された土器や石器を「いにしへのコロボックルが残したもの」と説明。この3年後、稲荷神社の跡地を開墾したところ古墳時代の鉄刀などが出土し、帝室博物館(現東京国立博物館)へ寄贈した。碑にはこの顛末が刻まれている。碑が建てられた場所(渡戸1)は削平され移設された。

31

ふりがな かみさわのひやくかんのん・やくしほんぞん
 名称 上沢の百観音・薬師本尊

地区 鶴瀬
 上沢2
 (上沢薬師堂)
 種別 石造物
 時代 近世～近代
 指定



本尊薬師如来は、大曾根大善がこの地に定住したときに守り本尊として身につけてきたものを、この場所に堂を建てて安置したものと伝えられる。百観音は、西国33、秩父34、坂東33カ所の霊場を寛政10～文久2年の間に大曾根家が三代にわたり巡礼した。巡拝できない人のために、明治2年(1869)に造立したもの。

32

ふりがな ばとうかんのん
 名称 馬頭観音

地区 鶴瀬
 上沢2
 (上沢薬師堂)
 種別 石造物
 時代 近世
 指定



一面二臂の坐像下に「普門品 供養 一万巻」と彫られている。享和3年(1803)造立。

33

ふりがな またぎいし
 名称 またぎ石

地区 鶴瀬
 上沢2
 (上沢薬師堂)
 種別 民俗
 時代
 指定



石はやや平らな面を上向きに地面すれすれに埋めてあった。妊産婦はこの石をまたぎながら安産を祈願した。

34

ふりがな まるぼりがたじぞうそんりゆうぞう
 名称 丸彫型地藏尊立像

地区 鶴瀬
 上沢2
 (上沢薬師堂)
 種別 石造物
 時代
 指定



子ども一人を左手で抱き、二人を衣の裾に隠し、錫杖で鬼を押しえつけている。子安地藏。水子の石工・増田代三郎の作。造立年銘なし。

35

ふりがな かみさわのこうしんとう(せいめんこんごう)
 名称 上沢の庚申塔(青面金剛)

地区 鶴瀬
 上沢3
 種別 石造物
 時代 近世
 指定



三富方面から上南畑・蛇木河岸までの河岸道沿いに立つ。上沢地区の鬼門除けの意味も込められて造立されたと伝えられている。寛政4年(1792)造立。

36

ふりがな おうぎだこ
 名称 扇だこ

地区 鶴瀬
 種別 民俗
 時代 近代
 指定



幕末から戦後まで川越を中心に武蔵野一帯に普及した郷土民芸。扇のような形から末広がりの縁起の良いモノとされてきた。創始者は市内の大曾根氏で、大正時代が最盛期であった。戦後まもなく途絶えたが富士見市扇だこ保存会により継承されている。

37

ふりがな はねざわいせきしゆつとじょうもんどき
名称 羽沢遺跡出土縄文土器

地区 鶴瀬
水子2003-1
(水子貝塚資料館)

種別 考古
時代 縄文

指定 県(有形)



羽沢遺跡(渡戸1・羽沢1)は縄文時代中期の集落跡。第40号竪穴住居跡から一括で出土した土器は、この時期の土器の組合せを示す特徴的な資料である。その中の1つの獣面把手付土器は、獣面と尻尾がつけられムササビが飛翔する姿を思わせる類例の少ない特異な意匠である。11点が県の有形文化財(考古資料)に指定。

38

ふりがな しないさいこのこうしんどう
名称 市内最古の庚申塔

地区 鶴瀬
山室1
(山室墓地)

種別 石造物
時代 近世

指定



山室の墓地にある市内最古の庚申塔は、板碑型。寛文4年(1664)、施主17人の名前が刻まれる。

39

ふりがな うらのけゆうすい・べんざいてん
名称 浦野家湧水・弁財天

地区 鶴瀬
上沢1

種別 石造物・湧水
時代 近世

指定



浦野家裏のシラカシ林の帯にある長径5m程の湧水による池。池の中ほどに中ノ島があり祠がある。その中に「弁財天立像」がある。右側に宝暦11年(1761)、左側に鶴馬村羽沢の文字、頭上の宝冠には白蛇と鳥居がある。

40

ふりがな とがくしやま「くずりゆうじんじゃ」
名称 戸隠山「九頭竜大神社」

地区 鶴瀬
羽沢2

種別 民俗
時代 近代

指定



明治37年に田中幸吉氏が信州・戸隠神社を分祀したもの。

41

ふりがな つるせえきかいつつきねん・なつめのき
名称 鶴瀬駅開通記念・ナツメの木

地区 鶴瀬
鶴馬1800-1
(富士見市役所)

種別 民俗、植物
時代 近代

指定



大正4年(1915)、鶴瀬駅開業1周年を記念し駅構内にマツやイチョウとともに植樹された。当時流行していた唱歌「水師營の会見」にある「棗の木」に起因する。昭和50年(1975)、駅構内整備で伐採されることになり、惜しむ市民からの要望により市役所前に移植された。6月頃黄白色の花が咲き、秋に2~3cmの楕円形の果実が熟し食用・強壮剤となる。

42

ふりがな ひばくあおざりにせいとへいわのかね
名称 被爆青桐Ⅱ世と平和の鐘

地区 鶴瀬
鶴馬1800-1
(富士見市役所)

種別 民俗、植物
時代 近代~現代

指定



富士見市役所前には、平和の鐘建設委員が寄贈した「平和の鐘」があり、その傍らには「被爆青桐Ⅱ世」が平成8年(1996)富士見市平和の鐘友の会により植えられた。青桐は、広島原爆の爆風により幹の半分がえぐられたが、翌春には芽吹き人々に希望を与えたもの。

43

ふりがな ふじみししょう

名称 富士見市章

地区 鶴瀬
鶴馬種別 その他
時代 現代

指定



富士見市章(制定当時は町章)は、公募を経て入選した6点の中から専門家の助言を得て、昭和41年(1966)5月1日制定。富士山の見える市ということで市章の中央に富士をおき、周囲に3本の川(荒川、新河岸川、柳瀬川)と旧3か村(鶴瀬村、南畑村、水谷村)の合併を意味した円を配し、富士見を象徴したものの。

44

ふりがな にんげんゆうせんどうろ

名称 人間優先道路

地区 鶴瀬
諏訪種別 その他
時代 現代

指定



昭和40～50年代、騒音あるいは交通事故の増加から市民生活の安全性の確保から設置。道幅4m以下で人通りの多い狭い道や通学路に自動車の交通を控えてもらうために設置した。

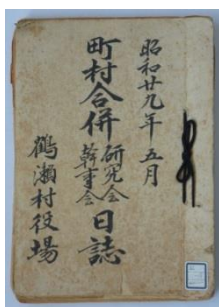
45

ふりがな 「ふじみ」たんじょうをものがたるつるせむらぎょうせいもんじょ

名称 「富士見」誕生を物語る鶴瀬村行政文書

地区 鶴瀬
下南畑568-1
(難波田城資料館)種別 歴史
時代 現代

指定



昭和31年(1956)、鶴瀬村、南畑村、水谷村の三村の合併により「富士見村」が誕生した。旧鶴瀬村行政文書には、三村以外に福岡村、大井村、三芳村、柳瀬村との合併協議の記録が残されている。

46

ふりがな からくりどけい

名称 からくり時計

地区 鶴瀬
鶴馬1873-1
(中央図書館)種別 建造物
時代 現代

指定



市内唯一のからくり時計塔。5匹の動物たちが音楽を演奏する。平成6年(1994)造。

47

ふりがな このかぜのおとをきかないか

名称 この風の音を聞かないか

地区 鶴瀬
羽沢3
(鶴瀬コミュニティセンター)種別 絵画
時代 現代

指定



画家・阿伊梨徳美氏から寄贈された150号の油絵。渋谷黎子・定輔氏などが描かれている。昭和61年(1986)製作。

48

ふりがな つますわじんじやのししまい

名称 鶴馬諏訪神社の獅子舞

地区 鶴瀬
諏訪2
(諏訪神社)種別 民俗
時代 近世～

指定 市(民俗)



一人立三頭一組のササラ獅子舞。太田道灌の検地の際、疫病が流行していたため、配下の者が京より渡戸に獅子舞を伝え奉納したところ快癒したと伝えられる。記録としては、寛文11年(1799)の資料が残されている。昭和30年代に後継者不足から中断したが、現在は渡戸獅子会により保存継承され、8月28日の「おすわ様」(諏訪神社)で奉納されている。

49

ふりがな さとかぐら
名称 里神楽

地区 鶴瀬

種別 無形、民俗
時代

指定



鶴馬の太夫・斎藤家は相模流を名乗り、6代目の一夫氏まで続いた。曲目は30曲以上あり、その中から当日の出方の顔ぶれなどによって曲を選んで奉納する。一夫氏後は、助演者が斎藤社中として、一夫氏が向ういていた神社で奉納している。市内では、4月10日の榛名神社、5月1日の上鶴馬氷川神社、8月28日の諏訪神社祭礼で奉納している。

50

ふりがな しのき・けやき
名称 市の木・ケヤキ

地区 鶴瀬
諏訪2
(諏訪神社)

種別 植物
時代

指定 市(天然記念物)



諏訪神社のご神木。樹齢推定500年、幹回り4.5m。木目が美しいので、けやけき(尊い、秀でた)木と言われた。関東の空っ風に耐える木として明治時代に幕府が植栽を奨励した。両手を高くかざした(突きノキとも呼ばれる)。家具、太鼓、器具、建材に優れており、巨木は大事な資産であった。

51

ふりがな すわじんじゃのえま
名称 諏訪神社の絵馬

地区 鶴瀬
諏訪2
(諏訪神社)

種別 民俗
時代 近世～近代

指定



鶴馬の諏訪神社の拝殿にある5枚の絵馬のうちの1つ。「天照大神天岩戸」で、楽器を持つ多くの人々のほかにニワトリが描かれている。板絵で高さ79cm、幅95cm。

52

ふりがな くもいたき
名称 雲居の瀧

地区 鶴瀬
諏訪1
(上鶴馬氷川神社)

種別 建造物
時代 近代

指定



人工の瀧で、明治末年の造成と考えられている。かつては講中の代参人は湧水の瀧に打たれて出発し、出征兵士の家族も瀧に打たれて武運長久を祈願した。遠方から訪れる人が多かったという。壁面の石材には、寄進者の名前が刻まれている。

53

ふりがな じんとうじゃしんのべんざいてん
名称 人頭蛇身の弁財天

地区 鶴瀬
諏訪1
(上鶴馬氷川神社)

種別 石造物
時代 近世?

指定



「雲居の瀧」の水源になっている湧水を溜めた池にある。で中之島の祠に三基の弁財天があり、そのうちの一基が人頭蛇身の弁財天である。

54

ふりがな らいでんじんじゃ
名称 雷電神社

地区 鶴瀬
諏訪1
(上鶴馬氷川神社)

種別 石造物
時代 近世・近代

指定



渡戸の三本木付近にあり、雷などの災害により天明6年(1786)に再建された。群馬県の雷電神社から勧請したもの。明治41年(1908)に現在の氷川神社に合祀された。

55

ふりがな つるせむらしようちゆうひ
名称 鶴瀬村彰忠碑

地区 鶴瀬
諏訪1
(上鶴馬氷川神社)

種別 石造物
時代 現代

指定



日清戦争戦死者1名、日露戦争戦死者3名、日清・日露両戦争従軍者9名、日清戦争従軍者3名、日露戦争従軍者46名、第1次世界大戦従軍者・シベリア出兵者27名の名が刻まれる。以前は、鶴瀬村役場敷地内に建てられていた。

56

ふりがな おりつとのぼとうかんのん
名称 折戸の馬頭観音

地区 鶴瀬
諏訪1

種別 石造物
時代 近世

指定



通常、馬頭観音は恐ろしい顔をした憤怒相であるが、この観音は温和な相をしているのが特異である。寛政4(1664)造立。入間東部で最古級の馬頭観音。

57

ふりがな かじけじゆうたく・ながやもん
名称 加治家住宅・長屋門

地区 鶴瀬
諏訪1

種別 建造物
時代 近世、現代

指定



元鶴馬村上組の名主宅の長屋門。再建であるが、古い材も用いている。文化年間の文字が残っている。

58

ふりがな おかどしやかたあと
名称 多門氏館跡

地区 鶴瀬
諏訪2

種別 城跡
時代 中世～近世

指定



近世旗本多門氏の館跡と伝えられる城館跡。以前は堀跡や土塁が残されていたが、現在は一部が残されているに過ぎない、発掘調査により中世からの城館跡であることがわかった。隣接の浄円寺には多門氏の位牌が残されている。

59

ふりがな やついでせきじゆうつそうのせつきぐん
名称 谷津遺跡Ⅹ層の石器群

地区 鶴瀬
水子2003-1
(水子貝塚資料館)

種別 考古
時代 旧石器

指定



谷津遺跡(鶴馬1・鶴瀬東1・2所在)の地表下約1.8mの立川ローム第Ⅹ層(約35,000年前)から出土した。縦長に割った石刃とナイフ形石器8点で、市内最古の石器である。

60

ふりがな みやわきいせきしゆうつどいがた
名称 宮脇遺跡出土鑄型

地区 鶴瀬
水子2003-1
(水子貝塚資料館)

種別 考古
時代 平安

指定



宮脇遺跡(羽沢3・諏訪1所在)からは平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が発見されている。その竪穴住居跡からは柄香炉、塔形鉢(まり)、獸脚等の仏具の鑄型が出土した。銅の溶解炉と推定されるカマドもあり、寺院へ仏具を供給する鑄造を行う工房跡があった。

61

ふりがな かやのきよぼく

名称 **カヤの巨木**

地区 鶴瀬
諏訪2

種別 植物
時代

指定 市(天然記念物)



樹齢推定500年、幹回り4.7m。
枝葉をちぎるとグレープフルーツのような香りがする。葉や枝は
燻して蚊を追い払う「蚊遣り」に由来する。果実は長さ2〜3cm程
の楕円形で、昔は種子を焼いて食べたり、油をとったりした。材
質はきめこまやかで節が無く、碁盤や将棋盤や風呂桶などに利
用される。

62

ふりがな せきぐちふどうどう・つきまちいたび

名称 **関口不動堂・月待板碑**

地区 鶴瀬
下南畑568-1
(難波田城資料館)

種別 考古
時代 中世

指定 市(有形)



嘉吉元年(1441)の年号が記され、月待板碑としては日本最古
のもの。鶴馬2丁目の権平川の岸から発見された。

63

ふりがな かきつがねん・つきまちいたび

名称 **嘉吉元年・月待板碑**

地区 鶴瀬
下南畑568-1
(難波田城資料館)

種別 考古
時代 中世

指定 市(有形)



宝徳元年(1449)の年号が記され、月待板碑として初期のも
の。決まった月齢の夜に集まり月が出るのを待つ信仰の際に建
てられた。鶴馬1丁目の三光院跡にあったもの。

64

ふりがな ごんべがわきょうだい

名称 **権平川橋台**

地区 鶴瀬
鶴瀬西2

種別 建造物
時代 近代

指定



権平川に架かる東上線の煉瓦製の橋台。大正3年(1914)の東
上線開業時に建造された。複線化に伴い上り線が煉瓦、下り線
はコンクリート製である。市内で見ることのできる煉瓦製の橋台
は、改修により少なくなっている。

65

ふりがな つるせえきのひ

名称 **鶴瀬駅の碑**

地区 鶴瀬
鶴馬
(鶴瀬駅構内)

種別 石造物
時代 近代

指定



鶴瀬駅は、大正3年(1914)5月1日の東上線の開通と同時に開
設され、その記念碑。鶴瀬駅開設前後の事情や開通当日の情
景が刻まれている。当初はホームにあったが、その後、ホームか
ら線路脇、現在では構内の西よりに移転。

66

ふりがな つるせえきていしやばきねんひ

名称 **鶴瀬停車場記念碑**

地区 鶴瀬
鶴馬
(鶴瀬駅構内)

種別 石造物
時代 近代

指定



駅の用地は確保できたが、駅から東側の県道へ通じる道がな
かった。再度用地の購入資金集めに奔走し、協力した人たちへ
の感謝の記念碑だという。碑には42人の名前が刻まれている。
現在では、鶴瀬駅の碑の隣りにある。

67

ふりがな じんち
名称 陣地

地区 鶴瀬
鶴瀬東2

種別 民俗
時代 近代

指定



旧日本陸軍照空部隊が配置された場所。大隊・中隊の140名ほどが駐屯し、敷地内には兵舎のほかにも病院などの施設が配置されたという。昭和19年(1944)の航空写真には建物跡などが見られる。資料として、「軍用敷地関係 昭和18年8月 鶴瀬村役場」(難波田城資料館)がある。

68

ふりがな はけうえいせきじょうもんじだいそうそうきのいぶつ
名称 八ヶ上遺跡縄文時代草創期の遺物

地区 鶴瀬
水子
(水子貝塚資料館)

種別 考古
時代 縄文

指定



八ヶ上遺跡(関沢1・2所在)からは、縄文時代草創期の土器や石器が発見されている。土器は、口縁に沿って細い粘土紐が数段貼り付けられた隆起線文土器とよばれるもので、石器には大型の石鎌がある。

69

ふりがな いんなみのこうしんとう
名称 陰波の庚申塔

地区 鶴瀬
諏訪2

種別 石造物
時代 近世

指定



板碑型の初期の庚申塔。「奉祈進庚申之供養」と刻まれ、小藤加左エ門が延宝2年(1674)に造立。平成16年頃現在地に移設。

70

ふりがな しもつるまひかわじんじやのはたさおたて
名称 下鶴馬氷川神社の旗竿立

地区 鶴瀬
鶴馬2
(下鶴馬氷川神社)

種別 石造物
時代 近代

指定



表には「國威宣揚」、裏には「皇紀二千六百年願主石井鐵次 同政次」。願主石井氏は地元の工務店。昭和15年(1940)造立。

71

ふりがな さいたまふるさとのもり
名称 埼玉ふるさとの森

地区 鶴瀬
鶴馬2

種別 植物
時代

指定



下鶴馬氷川神社・横田家裏の斜面林。オオタカが営巣するなど貴重な森である。昭和58年(1983)に埼玉県のふるさとの森に指定。

72

ふりがな らいごうじ・えんめいじぞう
名称 来迎寺・延命地藏

地区 鶴瀬
鶴馬2
(来迎寺)

種別 石造物
時代 近世

指定



鶴馬字下郷(現・鶴瀬西)の女人講中68名が浄財を募って造立したもの。享保8年(1723)造立。

73

ふりがな しものすいやあと
名称 下の水車跡

地区 鶴瀬
鶴馬2

種別 民俗
時代 近世～近代

指定



江戸時代の明和(1764)頃から昭和にかけ、市内には8ヶ所に水車があり、精米や製粉業を営んでいた。動力源が湧水という安定した水量が得られた他に、稲作地帯と畑作地帯に囲まれた地の利を得た産業であった。江川水系には上(かみ)の水車、中(なか)の水車、下(しも)の水車があった。現在も下の水車で使用した木製の大きな歯車が保存されている。

74

ふりがな てんぼうねんかん つるまむらえず
名称 天保年間 鶴馬村絵図

地区 鶴瀬
下南畑568-1
(難波田城資料館)

種別 古文書
時代 近世

指定 市(有形)



江戸時代後期の頃の鶴馬村絵図。彩色されており、台地と低地、湧水池が描かれ鶴馬村の地形がよくわかる。当時、開発されたばかりの新畑が明確であり、川や低地の田の様子がわかる。横田正志家文書。

75

ふりがな てんぼう6ねん つるまむらみちのりえず
名称 天保6年 鶴馬村道法絵図

地区 鶴瀬
下南畑568-1
(難波田城資料館)

種別 古文書
時代 近世

指定 市(有形)



鶴馬村の村内を走る道と、交差点間の距離を記した絵図。現代の地図と比較すると面白い。横田正志家文書。

76

ふりがな えがわにかかるはし
名称 江川に架かる橋

地区 鶴瀬
鶴馬2・3

種別 建造物
時代 現代

指定



市内には現在大小110の橋があるが、富士見江川には、上流から、丸池橋、駒形橋、鶴馬橋、あすなる橋、鶴関橋、江川橋、打越橋、曙橋、寿橋、うずら橋の11の橋が架けられている。

77

ふりがな たろべいのくようとう
名称 太郎兵衛の供養塔

地区 鶴瀬
鶴馬

種別 民俗、石造物
時代 近世

指定



横田家が鬼門除けとして、屋敷の北側に太郎兵衛の供養塔を造立したもの。宝暦6年(1756)造立。

78

ふりがな たろべいの「こうしんくようとう」
名称 太郎兵衛の「庚申供養塔」

地区 鶴瀬
水子

種別 民俗、石造物
時代 近世

指定



「太郎兵衛の墓」と呼ばれ、親孝行だった太郎兵衛は病気の父親に鶴の生血を飲ませるとよいと聞き、禁猟の鶴を殺してしまった。この罪により太郎兵衛は磔の刑にされた。親孝行であった太郎兵衛の死を悲しんだ村人により寛政4年(1792)造立されたと言われる。損壊され現存しない。

79

ふりがな うずらがしあとの「すいじん」

名称 鶺河岸跡の「水神」

地区 鶴瀬

下南畑
(鶺河岸跡)

種別 石造物

時代 近世、近代

指定



船乗りの守り神として大杉神社を祀ったといわれ、毎年上福岡の大杉神社のお札配りが来てお札を取り替えたという。嘉永2年(1849)、明治8年(1875)造立。

80

ふりがな ななさわやてら

名称 七沢八寺

地区 鶴瀬

種別 民俗

時代

指定



江戸時代、鶴馬村には「七沢八寺」という言葉が伝わっている。七沢は、上沢・羽沢・関沢・権平沢・柿沢・唐沢・南沢を言い、富士見江川や権平川などの小河川の細長い谷地形に地名が付けられたようである。八寺は、新編武蔵風土記稿にも記され、今も残るのは来迎寺(写真)・浄円寺・瑠璃光寺、既に廃寺になっているのは光明寺・三光院・西蔵寺・慈眼寺・宝蔵寺である。